

## ウメ主要品種の支配親和性について

平山好見・緒方俊雄

(大分県農業技術センター)

HIRAYAMA, Y. and OGATA, T.

On the Cross Compatibility in leading Variety of *Prunus Mume*

ウメは年により豊凶の差が著しく生産は不安定である。これは雌蕊短少の不完全花や不授精など生理落果によるものが殆んどであり、中でも不授精が主因となっている。授粉樹の選定にあたって、交配親和性は花粉の有無、開花期と共に重要であるが、ウメの交配親和性に関する成績は少ない上に、最近の優良品種を含めた必要な組合せがみられない。このため本県の主要品種に対する授粉樹を選定するため交配親和性を検討した。

### I. 試験方法

1974年に、場内の8年生樹を使用し、交配組合せは第1表のとおり行なった。授粉の方法は、雌花の開花前にポリプロピレンネット(2mm目)であらかじめ被覆しておき、その後当日開花した雌蕊完全花に準備してあった雄花の当日開花した花粉をルーペで見ながら薬ごとすりつけて授粉した。区制は1区1樹15~20花・4連制、調査は落花・果状況を知るため開花から結実の判明する時期まで2~3日ごとに調査した。ネットは授粉35日後に除去した。

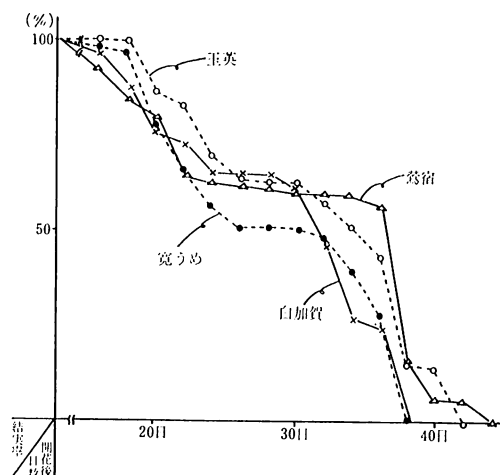
### II. 試験結果

1. 授粉による結実率は、第1表のとおりで全般的に他家授粉区が高く、親和性はあるものと思われる。しか

し、甲州最小を花粉品種とした場合は結実率が低かった。

2. 落花・果の推移を被覆による不授粉花の落花・果でみると、波相に二つの山がみられ、第1回は開花後15~25日、第2回は30~40日ごろであった。第1回目の落花は不完全花、第2回目は不授精による生理落果が主なものであると思われた。

3. 形態的不完全花の発生率は、鶯宿が18.6%で最も



第1図 不授粉花の落花、果状況

第1表 交配組合せと結実率

♀品種	♂品種	鶯宿	南高	林州	甲州最小	竜峽	不授粉	放任	開花期
		%	%	%	%	%	%	%	%
玉英		68.1	63.5	75.5	12.5	88.6	0	41.2	3.5~3.20
白加賀		67.7	85.9	76.8	13.3	80.6	0	41.8	3.6~3.26
鶯宿		1.7	72.0	68.3			0	54.2	
南高			2.6						
甲州最小					20.0				
寛うめ		69.8						54.1	3.5~3.23
花粉量		多	やや多	多	極少	やや多			
開花期		3.3~3.19	2.24~3.15		3.1~3.22	2.21~3.17			

- 摘要
- 鶯宿の不授粉は開花前に除雄した。
  - 放任はネットを被覆しないで1区100~150花について調査した。
  - 数字は不完全花の落花後の花に対する結実率

高く、玉英、白加賀、南高、寛うめ、竜峽は2.8%以下で低かった。

4. ポリプロピレンネットによる花粉の遮断効果は不授粉区の結果から充分あるものと推察される。

5. 以上のような結果から、この試験の範囲の組合せ

であれば甲州最小を除けば交配不親和性は殆んど認められなかった。しかし、甲州最小については花粉が少なかったので異系とゆうことも考えられ、さらに追究する必要がある。